

# 研究だより

2020年1月7日

NO. 21

研究主任

## 私の考える授業のノート… みなさんはどう思いますか？

私の中学校では「ノート展示会」がありました。いかに授業のノートをきれいにとり、整理されているかを評価されました。私は、色ペンを駆使して、定規をしっかり使い、きれいにノートをとるのが得意でした。私が教師になってからも、子どもがノートをとりやすいような板書を心掛けてきました。

でも、なんか違うと思うのです。

今年、学校研究で学び合いの充実を図るために、学習形態をまず変え、子どもたちを一人にしない学びを意識してきました。分からないときに「分からないから教えて」と言ったり、子どもたちがお互いの意見を聴き合ったりして、友だちと関わり合いが持てるようにすることで学びが深まると考えて取り組んできました。また、ただ聞くだけでなく、友だちの考えを自分の言葉で説明できるようにしっかり考えながら聴いたり、感想や疑問を持ちながら聴いたり訊いたりすることで学びの理解も深まっていくと考え、子どもの「きく」ことに対する構えの改善を図り、学び合いの充実をみんなで目指しています。さらに、ジャンプの課題についても、みんなで試行錯誤しています。そこで、さらに、学び合いを充実させるために、ちょっとノートづくりについて、考えてみました。

共有の課題や特にジャンプの課題を考えると、考えが全く整理されていない状態です。「どうやって解くんだろう?」「何が使えるのかな…?」など、頭の中はぐるぐるといろんなことが巡っています。そんなとき、ノートにきれいに何が書けるでしょうか?



この方法ではどうだろうか  
…とりあえずやってみよう!

でも、やってみたらう  
まくいかない、なんで

あっ、間違ってた! 別  
な方法でやってみよ

こんなふうに、いろいろ考えを巡らせているときのノートは、決してきれいには書けませんよね。失敗したら、×をつけて、その下に別の考えを書いてみる。でも、失敗した考えをもう一度見つめてみる。友達とここまで考えたんだけど、どう思う?と、見せ合ってみる。そこで、何かに気づく……。つまり、友達同士で、考えを巡らせて悩んでいるときは、きれいにノート整理なんてできないと思うのです。

今、6年生の算数のノートは、全くきれいではありません。結構ぐちゃぐちゃに考えが右往左往している感じのノートがたくさんあります。友達の考えを急いで書き写しているようなものも見られます。間違いは消さないことを口すっぱく話をしています。授業中のノートは、全くきれいでなくていいと思っています。自分の考えの跡が残っていることが大事だと思うのです。

6年生の子どもたちは、自分の考えの跡が残っているノートを見て、家に帰って自学ノートに授業の振り返りを書いてきます。実に驚くほど考えの過程が見えるノートがたくさんあります。S子さんは、授業中あまり言葉を発しませんが、友達の話を聞きながらノートにメモをし、1時間の思考の流れが分かるように書いてきます。J男さんの授業ノートはぐちゃぐちゃですが、家に帰ってそれを言葉にして整理してきます。

授業中に大切な「まとめ」をしなくても、子ども達は家で自分の学びのまとめをします。授業の内容が薄く、まとめなくてもいいような授業は、子ども達は家でまとめてきません。その時は自分を反省します。子どものまとめを見て、理解の誤解を見つけることもあります。それも大事なことだと思います。子どもの理解がどうだったかを確かめるためにも家での振り返りが大切だと思います。そのための授業のノートかなと思います。

学び合いと授業中のノートって関係深いと思うのですが、どう思いますか?もちろん学年の段階はあると思いますが……